

令和5年度第2回一宮市総合教育会議 会議録

1 日時

令和6年2月13日（火）16時00分～17時25分

2 会場

一宮市役所 本庁舎 6階 特別会議室

3 出席者

市長 中野 正康
教育長 高橋 信哉
教育委員（教育長職務代理者） 浅野 智貴
教育委員 浅井 衣子
教育委員 五藤 裕達
教育委員 高橋 富貴子
教育委員 青山 裕美
教育委員 川松 久芳

4 事務局（9名）

戸谷行政課長、高橋行政課専任課長、村山行政課課長補佐、足立行政課主任、森教育部長、平野教育部次長、福田教育部総務課長、川延教育部総務課専任課長、櫻井学校教育課長、尾関学校教育課管理主事

5 傍聴者

1名

6 議題

- (1) 休日部活動の地域移行について
- (2) シン学校プロジェクトについて

7 資料

- (1) 資料1 令和5年度休日部活動地域移行いちのみやモデル事業アンケート結果（12月28日まで）
- (2) 資料2 中学校休日部活動の地域移行についてのアンケート（教職員）
- (3) 資料3 令和6年度休日部活動地域移行モデル事業 開催種目予定一覧
- (4) 資料4 軟式野球～令和6年度休日部活動地域移行モデル事業～
- (5) 資料5 いちのみやスポーツ・文化クラブ事務局について（案）
- (6) 資料6 必要な施設予約システムとは
- (7) シン学校プロジェクト 基本方針（案）

※会議の内容は次項のとおりです。

事務局

本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から一宮市総合教育会議を開催させていただきます。

本日は、1名の方に傍聴いただいておりますので、よろしく願いいたします。

それでは、会議に先立ちまして、中野市長からごあいさつを申し上げます。

市長

教育委員の皆様、お疲れ様でございます。

本日は議題が二つありまして、1つ目の議題は、1年前に取り上げました「休日部活動の地域移行」です。これは地域の関係団体の皆様の協力をいただきながらすすめるべきでないもので、最初は5分野でスタートして、現在、試行錯誤をしている途中になります。ぜひ皆様のご意見をいただきたいと思っております。

もう一つは、「シン学校プロジェクト」になります。こちらは前回の会議で私の方から問題提起をさせていただいたもので、おかげさまで比較的高い関心を関係各位の方にもっていただいております。ただ、もう少し欲を言えば、若い世代の意見を吸い上げていきたいと思っておりますので、その点について教育委員の皆様が聞いている話があれば、ぜひこの場でご披露いただければと思います。

今日はよろしく願います。

事務局

ありがとうございました。どうぞたくさんのご意見をよろしく願いいたします。

では、ここからは、総合教育会議の設置に関する要綱第4条第1項により、市長が議長となります。よろしく願いいたします。

市長

では、はじめに議題の1「休日部活動の地域移行について」、事務局から説明をお願いします。

事務局

令和8年度からの休日部活動地域移行を目指し、令和4年度より部活動地域移行検討協議会を設置し、協議を重ねながら、令和5年度は、11月からバレーボール、サッカー、剣道、柔道、12月から吹奏楽の5つの種目でモデル事業を行っております。

今回、モデル事業に参加した生徒について、地域クラブを希望する教職員についてのアンケートを報告した後、令和6年度以降のモデル事業の在り方、事務局の在り方、学校施設のカギの利用の在り方について説明し、ご意見を頂きたく、議案とさせていただきました。

資料1をご覧ください。令和5年度いちのみやモデル事業の12月までの生徒のアンケート結果を簡単に報告させていただきます。

まず、バレーボールです。登録している人数は男子50名、女子56名です。回答数は、毎回アンケートを取っており、アンケート実施の4回までの延べの回答数です。③では、

100%の生徒が「次回も参加したい」、その理由として「楽しかったから」「学校では教えてもらえないことを教えてもらった」が多かったです。⑤の指導者について100%が「満足」と回答しています。⑧の移動手段については、「保護者送迎」が最も多かったです。

市長

バレーボールについては、どこの会場でどういう方に指導者になっていただいたのでしょうか。

教育長

尾西第一中学校、木曾川中学校が会場で、ウルフドッグスの方に指導者になっていただきました。

事務局

では、次のサッカーですが、③の次回も「参加したい」96%に対して、「参加したくない」は4%の8件でした。⑧の移動手段は、3地区に分かれての実施もあり、「自転車」と「保護者送迎」がほぼ半々でした。

教育長

サッカーは3地区で行われ、北地区が葉栗中学校と今伊勢中学校、南西地区が大和中学校と萩原中学校、南東地区が南部中学校と西成東部中学校を会場とし、サッカー連盟の方に指導者になっていただきました。

事務局

次の剣道については、99%が次回も「参加したい」で、89%が「保護者送迎」でした。剣道については、木曾川文化スポーツクラブの方に指導者になってもらいまして、会場は中部中学校、尾西第三中学校でした。

最後の柔道は、100%が次回も「参加したい」、移動手段については「保護者送迎」が77%でした。

柔道については大成中学校で行い、指導者も大成中学校の方になっていただきました。資料2をご覧ください。

1月に取った教職員へのアンケートです。1,372名から回答を得ました。

一番下の左側のグラフをご覧いただくと、「休日部活動が地域クラブ活動に移行されたとき、指導者になることを希望しますか」に対して、21名が「強く希望」、82名が「希望したいが、条件による」、106名が「説明は聞いてみたい」でした。

次は、資料3をご覧ください。

今年度、5つのモデル事業を実施していますが、来年度はさらに種目を広げていき、年間を通して約15団体による実施を目指していきたいと考えています。まず、今年度実施していただいた5つのモデルケースについては、同じく5つの種目で年間を通して行えるように、実施の準備を進めています。それ以外にも複数の団体から協力をしたいというお声をいただいております。プロチームのモデルケースにあてはまるバスケットボールチームの「ファイティングイーグルス」やスポーツ協会の方と連携して行う形、教職員が地域クラ

ブを立ち上げての形など、いくつかのモデルケースを合わせて行えないかと考えています。

その中で、この表の6番のケースは、教職員が軟式野球の地域クラブを立ち上げることを予定しているものです。資料4のチラシをご覧ください。野球部のない大和南中、尾西二中、北方中で募集し、人数が少なければ他校にも広げていこうと考えています。既に小6から中2にこのチラシを配布し、2月には3校の入学説明会でもアピールしていきます。この事業で、指導を希望する教員は、現在5名、地域の方が2名です。4月から活動を開始できるよう、現在準備を進めております。

ただ、計画しているモデル事業ですが、部活動も並行して活動している移行期間になりますので、補助金等を活用し、保護者負担を減らしながら参加者を確保していきます。そして、モデル事業の検証をし、地域移行を進める上での課題を洗い出していきたいと考えています。

令和5年3月の小6から中2までのアンケートでは、休日の地域クラブ参加を希望するのは約50%、約5000人でした。令和5年度の5つの事業での参加者は約400名、令和6年度は、15種目の1500名を考えております。

さらに、その次の令和7年度は、バスケやバレーなど、希望が多い種目については、できるだけ複数のモデル事業ができないか、また、ダンスやバドミントン、書道など、現在の部活にないが、生徒の希望に沿ったモデル事業を増やしていきたい、と考えると50くらいのモデル事業が必要ではないか、と考えています。

また、モデル事業を行う中で、課題の洗い出しと同時に、希望する生徒の受け皿を広げ、希望する教職員や地域の方などの指導者の掘り起こしも進められるのではないかと考えています。

次に、事務局についてです。資料5をご覧ください。

モデル事業を進めていく中で、モデル事業に参加していただける団体、つまり、新たに中学生のための地域クラブ活動を実施していただける民間団体への後押しや、希望する教職員や地域の方が新たに地域クラブを立ち上げ、円滑に運営ができるよう支援したいと考えております。そこで、教育委員会内に事務局、名称は「いちのみやスポーツ・文化クラブ事務局」を作り、実施団体との交渉、実施日程の調整、保護者負担軽減のための補助を行うなど、モデル事業の運営に関わりながら進めていこうと考えています。

この資料の2は、事務局の編成案です。令和5年度は、学校教育課指導主事2名が兼務で業務を行いました。令和6年度は、学校教育課の庶務係1名を兼務に加え、3名体制とします。令和7年度は、モデル事業の拡大に合わせ、専任の事務局長を置いて、4名体制にしたいと考えています。この事務局については、将来的には教育委員会とは切り離して、独立した形にし、支援していく形にできないかも検討していきます。

現在の課題としましては、特に会場校の体育館入口の開錠・施錠、体育倉庫の開錠・施錠、校舎内へ入るための方法です。現在は指導主事が会場・施錠を行っておりますが、今後はどのようにしていくか考えていく必要があります。最近、スマホやカードの電子で

開錠・施錠ができるものも出てきています。

この電子システムについて、総務課から説明を行います。

事務局

資料6をご覧ください。

あくまでも検討段階ではありますが、予約システムと電子キーが連動するものを考えております。利用者の方がスマートフォンかパソコンを使い、予約システムで予約をするとメールで暗証番号が届きます。利用者の方が現地で暗証番号を入力すると開錠するという流れになります。できれば来年度中にモデル事業として実施できないかと思っております。

事務局

以上、現在までのところの計画ですが、令和8年度からの休日部活動地域移行を目指し、モデル事業について、事務局の在り方について、電子キーについて、説明をさせていただきました。皆様のご意見を伺わせていただけたらと思います。よろしく申し上げます。

市長

説明ありがとうございました。もう少し令和5年度のモデル事業の内容について詳しく知りたいのですが、例えば、バレーボールはどのくらいの頻度で行われていたのでしょうか

事務局

基本的には月2回行っています。バレーボールは日曜日が多かったです。月2回、11月から3月まで合計10回行う予定です。

市長

念のため確認しておきたいのですが、休日部活動の地域移行ということは、現状、部活動は休日にも活動していて、それを地域に移行するという理解でよいのですよね。

事務局

そうですね。現在は土曜日でも日曜日でも部活動をやっています。

現状、休日部活動は教員のボランティアに依存してしまっている状態となっているため、今後は、これを地域に移していこうということです。

市長

それでは、年10回の活動を地域に移行すれば、学校の休日の部活動は全部、地域に移されるという理解で良いのでしょうか。

教育長

今年度行ったものは、あくまで今後、部活動を地域に移していくために試験的に行ったモデル事業であって、学校の先生が行う部活動とは別物として行われました。ですので、年10回の活動を地域に移行すれば、休日部活動が全部、地域に移されるというわけはありません。

令和8年度を目標に、休日は、学校ではなく、地域クラブが受け皿となって、希望する子どもたちが何らかの活動をすることができるようになることを目指しています。

市長

今回のアンケートは子どもたちが主役で良いと思うのですが、学校の方はどうだったのでしょうか。これをやることで、例えば、バレーボールなんかは土日、学校でやらなくなって、顧問の先生たちの負担が軽減されたというようなことはあったのでしょうか。

教育長

実は、学校の部活動は、今年度も今までどおり行っています。それにプラスして、今は移行期ですので、子どもたちの受け皿になるモデル事業を並行してやっているという状況です。ですので、先生たちの負担というのはそれほど変わっていないと思います。

また、学校の部活動とモデル事業を並行してやっておりましたので、学校には活動日が被らないよう調整をお願いしていました。また、子どもによっては、土曜日にモデル事業に参加して、日曜日に学校の部活動に参加して…という子もいたと思います。

ちなみに、昔は、部活動は全員参加で、土日もほぼ両方とも活動していたのですが、今は、希望すれば所属するという形に変わってきておりますし、土日のいずれかというルールになっています。また、毎月第三日曜日は、家庭の日として、部活動を行わない日となっておりますので、部活動は、縮小傾向にあるといえると思います。

市長

今は、受け皿となる地域クラブの方に着目してモデル事業を行っているのだと思うのですが、送り出す学校側の負担が軽減されているのかという点も気になるところです。

教育長

学校側の負担軽減という点については、校長会でもよく話していて、土日の活動日数を減らしていこうという話になっていきますし、平日についても、勤務時間内に収められるようにできないかという話もしています。

ただ、平日の部活動については、子どもや保護者様の意見を聞きますと、やってほしいというご意見が多くありますので、折り合いをつけるのが難しいところがあります。

また、資料6に出ている予約システムに連動した電子キーというのも、とても大事な論点で、今は、指導主事が土日に会場に行って開錠をしているという状態になっていますが、他の市町村を見ると、春日井市は、1億円規模の予算を取って、教員に手当を支給して開錠してもらっているそうで、また、既に部活動を地域移行している一部の市町村では、指導員に鍵を貸し出しているところもあるそうです。ただ、どこの市町村も、開錠をどうするのかということについては非常に困っているところで、その点、電子キーというのは、良い方法だと思います。

市長

そうですね。教育スポーツ施設だけに限らず、鍵のスマート化というのは非常に重要なことで、今は暗証番号での鍵というのが増えていますから、事前に電話番号を登録してもらって、ショートメッセージでワンタイムパスワードを送るという仕組みの導入を検討してもらっているところです。

では、他の委員の皆さんは何かご意見やご質問はありますでしょうか。

委員

子どもたちにアンケートを取ってもらって、満足しているという回答が多く得られたということで、とても安心しました。ただ、保護者の立場からお聞きしたいのですが、保護者に対しては、アンケートを取らなかったのでしょうか。あと、やはり送迎のことが特に気になりまして、複数箇所モデル事業が行われた種目は自転車も多かったということなのですが、バレーボールのモデル事業は、木曾川中学校で開催されたということで、保護者の送迎が必須だったと思います。その点について、保護者の負担を軽減する方法は何かないでしょうか。また、保護者が送迎についてどう思っていたのか、アンケートで聞いてみていただければと思います。

事務局

保護者の方へは1年ほど前にアンケートを取りまして、また、今年度のモデル事業がすべて終わった後にも、改めてアンケートを取る予定です。

1年ほど前のアンケートでは、4割くらいの方に自分の子どもを通わせてもよいと回答していただきましたが、費用や送迎について不安があるとの回答もありました。

現状、どの種目についても、保護者の送迎は多いのですが、例えば、サッカーについては、三つの地区で行った結果、半分くらいの子どもが自転車で通うことができました。ですので、保護者の不安の一つを解消するためには、今後、会場を増やしていくことが重要になってくると思います。

委員

ありがとうございます。

私も自分の子どもの部活の関係で送迎をした経験があるのですが、学校によっては周辺の道が細く、近所の方のご迷惑になってしまうようなこともあると思います。また、自転車で通う子もいる中で、車での送迎もあるということになりますと、接触事故の不安もあります。ですので、会場数を増やしていくというのは大事になると思いますので、よろしくをお願いします。

市長

重要なポイントだと思います。

隔週で継続的に開催するのであれば、開催日ごとに会場を変えるということはどうでしょうか。

事務局

令和5年度については、学校の都合もあるので、なるべく同じ会場で、という方針で実施しました。

ただ、中には自分のところを会場に使ってほしいと言ってくれる学校もあったので、その場合には、分散して開催しました。例えば、剣道については、木曾川スポーツクラブの方に指導者をしていただいたのですが、会場は尾西第三中学校と中部中学校にして、分散

して開催をしました。

分散して開催することになりますと、近くに住んでいる子は参加しやすいので、今後は会場を増やすことを検討していかなければならないと思っております。

市長

混乱が生じない程度に柔軟に対応していただければと思います。

委員

来年度には、軟式野球で教職員モデルができるということですが、一方で、教職員に対するアンケートでは 84%の方が地域クラブの指導者になることを希望しないという結果が出ております。

そこで、私としては、教職員の方に対して、「一定の報酬が支払われるのであれば、地域クラブの指導者になることを希望するか」という質問をした場合、どのような反応になるのかが、気になるのですが、事務局としてはどうでしょうか。

事務局

教職員が地域クラブの指導者になる場合、部活ではないので、兼職ということになり、報酬が支払われます。国の方が基準として時給 1600 円くらいというのを示しておりますので、それに沿った額が支払われることになるかと思えます。

委員

中には報酬が支払われるのであれば、頑張っても良いよという先生もみえるのではないかと思いますので、こういった質問をさせていただきました。

事務局

資料 2 の一番下の右のグラフは、教員のうち、「地域クラブの指導者になることを希望しますか」という質問に対し、「強く希望する」「希望したいが、条件による」「興味はあるので、説明は聞いてみたい」を選んだ方に聞いたもので、回答者は合計で 210 人近くいるのですが、うち 25 人の方が民間団体に所属して指導したいと回答しており、73 人の方が教職員仲間と一緒に指導したいと回答しており、105 人の方が、今、自分たちが指導している部活動をベースにしたクラブで指導したいと回答しております。教員はこういった意識をもっておりますので、それを踏まえて、教職員の方に地域クラブの指導者になってもらえるようにしていきたいと思えます。

市長

「強く希望する」という方が 21 人しかいなくて、「条件による」という方が 6%なのですが、その点についてはどう考えているのでしょうか。

事務局

「強く希望する」という選択肢ではなく、単に「希望する」という選択肢にしていれば、もう少し増えたのではないのかなと思えます。

また、「条件による」と回答した方の中には、「報酬が十分に支払われるのであれば指導する」という方もいれば、「1 人ではなく、何人かの教職員仲間とやるのであれば、指導

する」という方もいるでしょうし、「種目や指導日を選べるのであれば指導する」という方もいると思います。こういった方々については、うまく条件が合えばやってもらえるのではないかと考えてます。

市長

教職員に対するアンケートについてですが、年代別の回答結果は把握していたりするのでしょうか。というのも、例えば、「希望する」と回答した方が50代の方ばかりだとすると、継続性という点で不安が生じると思います。

事務局

資料2の一番上の右のグラフに示しているとおおり、回答者全体の年代別の割合は出ているのですが、各設問について年代ごとに回答結果を出すということまではできていません。

市長

年代ごとに先生方の気質が違ってきたりするんじゃないかと思うので、年代別の回答結果は気になるところですね。

委員

子どもが部活動を行うモチベーションとして大会というのがあると思うのですが、休日部活動を地域移行した場合、大会についてはどういう形になるのでしょうか。

事務局

現在、既に存在している市大会、西尾張大会、県大会に地域クラブもエントリーすることができるようになれば一番良いのですが、現状、地域クラブがエントリーできる種目は限られています。

委員

大会が開催されるのは休日になると思うのですが、平日部活動にだけ参加している子どもたちが大会に参加する場合、どのような形になるのでしょうか。現状、大会は学校ごとの参加ということになっていると思うのですが、休日部活動を地域移行した場合、学校ごとの参加というのはなくなってしまうのでしょうか。

教育長

今後は、様々なチームが大会に参加することになっていくと思います。例えば、地域クラブで参加というパターンもあるのでしょうか。学校単位で組織したチームで参加することもあるのでしょうか。複数の学校が合同でチームを組んで、大会に参加することもあると思います。

委員

2年ほど前に、部員数は11人以上なのにもかかわらず、クラブチームに所属している子が多くて、大会に参加することができず、サッカー部が廃部になったという事例があったと思いますが、今後はそういったことはなくなっていくのでしょうか。

教育長

今後は、クラブチームに参加している子は、そのチームで大会に参加することになり

なっていくと思います。

また、サッカー部がなくなってしまった地域に、サッカー連盟の方が地域クラブを作ろうとしているという動きもありますので、今後は受け皿も増えていくと思います。

市長

私としては、送り出す学校の負担軽減という観点も大事にしていきたいと思います。学校も大変、地域クラブも大変では意味がないと思いますので、よろしくお願いします。

委員

他の地域でスマートロックを導入しているところはあるのでしょうか。また、その場合、更衣室やお手洗いの施錠はどうしているのでしょうか。更衣室やお手洗もスマートロックで開ける形になるのでしょうか。

事務局

県内でスマートロックを導入しているところはありません。県外では川崎市がスマートロックを導入していると聞いています。

市長

たしかに体育館だけでなく、更衣室やお手洗も含めて計画していかなければなりませんね。ご指摘ありがとうございます。

では、そろそろ二つ目の議題に移りたいと思います。シン学校プロジェクトについてですが、まずは事務局の方から説明をお願いします。

事務局

よろしくお願いします。

シン学校プロジェクトは、現在、基本方針の素案をまとめまして、2月1日から3月1日の期間で市民意見提案制度（パブリックコメント）で、市民の皆さまの意見を募集しているところでございます。本日は、総合教育会議の場をお借りしまして、基本方針案について教育委員の皆さまにご説明の機会を設けさせて頂きました。

この基本方針（案）ですが、非常にボリュームがありますので、全体の総括となっている最後の第5章の部分を使ってご説明させていただきたいと思います。

第1章では、シン学校プロジェクトを行う狙いについて記載してあります。シン学校プロジェクトは、単なる老朽化に伴う校舎改修事業ではなく、市民の皆様から学校のあり方について御意見を頂き、地域から出た要望や課題を最大限吸い上げた上で、市が対象校を選定します。

その後、複数回のワークショップを通して市民の皆様と市とが協働して学校のあり方を考えていきます。

第2章では、市の考えるべき教育・行政の視点を示しました。

市としては、市の各種計画の内容もふまえつつ、「柔軟で創造的な学習空間」「地域と連携・協働できる共創空間」「安全・安心な教育環境」「持続可能な教育環境」を学校施設の目指すべき姿と考えており、校舎の老朽化への対応についてや、学級数を考慮に入れた学

校の適正規模、通学距離を考慮したうえでの学校の適正配置についても、文部科学省の基準等もふまえて検討してくことを示しました。

第3章では、市の現状を整理しました。連区によって人口動態に違いがあること、また各校の校舎等の老朽化状況、児童生徒数の推移、普通教室の利用状況予測についてデータを示し、市全体を一括りにして考えるのではなく、各地域の事情や個々の校舎等の状況に応じて、改築だけでなく、現在の校舎の躯体を生かした長寿命化改修も検討する必要があることを示しました。

第4章では、統廃合、複合化、PFIなどの民間活力の活用といった現在の学校をとりまく潮流を整理するとともに、先進事例を紹介し、校舎を更新する上で色々な選択の可能性があるということを示しています。

そして最後に、シン学校プロジェクトの第1期では、令和6年4月には募集資料を公表し、対象校の募集を行う予定です。その際、応募の方法や、選定基準についても示しますが、単に熱意やアイデアだけを比較し、順番をつけて対象校に選定するというのではなく、ここまでの第1章から第4章までの観点に加え、次のような観点も含め、総合的に評価して第1期の対象校を選定していきます。現時点においては、それぞれが、市民の方からいただくご意見を評価していくうえで、判断していく基準のひとつとなるものと考えております。

一つ目は、集合住宅の開発等による急激な児童生徒の増加で、教室数が不足する恐れのある学校や老朽化が著しく対応が必要な学校などは、早急な対応を検討する。

例えば、工場の跡地で100～200世帯くらいのまとまった共同住宅が建つ地域があると優先順位は高まります。

二つ目は、小中一貫校の導入や他の施設との複合化などにより、敷地の有効活用が見込める学校や新たな学びの推進に寄与する学校については、早期かつ最大限、その可能性を引き出したい。

一宮市公共施設等管理計画では公共施設の延床面積を40年間《H29～R38》で15%削減すると言っていますので、敷地面積の削減は大きな問題の一つと考えます。複合化はその手段のひとつですし、小中一貫校もそうです。小中9年間で継続的に子どもたちの指導ができるということで、連続性・柔軟性を活かした教育効果が期待できるメリットもあります。ただし、小中一貫校はなかなか難しく、地区で小中一校であること、学校同士が離れていないことが条件なると思いますので、対象となる学校は限られてくるかと考えています。

三つ目は、通学区域の再編を伴う場合は、地域の合意があることが前提となるため、第1期プロジェクト対象校に採用することは難しいと考えますが、地元協議が整い、要望があれば積極的に検討を進めたい。

時間的には、第1期では難しいと考えますが、ご要望がありましたら検討は進めていきたいと考えています。

四つ目は、改築することなく、予備教室を利用し新たな学びの推進に寄与できる場合については、早期に整備に着手できるように配慮します。11月26日に行いました、シン学校プロジェクトのキックオフミーティングで基調講演をされた東京電機大学の伊藤教授は、これからの教育は、従来通りの個々の教室での一斉授業形式だけでなく、時には隣のクラスともあわせて多目的教室に集合し、集団で知識を共有したり発見を持ち寄ったりする学習形式を行っていくことも大事なのではと仰ってみえました。こうしたことは、改築まで行わなくとも、例えば、クラスとクラスの間には予備教室を配置するといったように、予備教室の配置を工夫することによって可能なケースも考えられますので、そういったことも検討していきたいと考えています。

以上が、シン学校プロジェクト基本方針案についてのご説明となります。もしご意見などございましたらよろしくお願いたします。

市長

教育委員の皆さん、何かご質問やご意見はありますか。

委員

これから新しく建て替える校舎は、見栄えも良く、使いやすく、学びやすさを追求したものになると考えられますが、やはり義務教育ですので、公平性の観点から、建て替えない校舎との差が大きくなりすぎないようにしていただきたいです。予算が有限であることは理解していますが、建て替えない校舎については、リニューアルをしていくということも検討していただければと思います。

委員

小中一貫校の実現や合併をしてほしいという声は、実際に上がってきているのでしょうか。

事務局からは小学校と中学校が隣接する地域だと小中一貫校を実現しやすいとの説明がありましたが、そこだけをやってしまうと、小学校と中学校の距離が遠い地域との間で不公平が生じてしまうと思います。

もし、小学校を統合してもよいという地域があるのであれば、そういう地域では積極的に小中一貫校を推進していただき、素敵な学校にしていいただければ、他の学校でもそういう動きが出てこないかなと思います。

事務局

小学校と中学校が離れている地域で小中一貫校を実現したいという話は今のところ出てきていないですね。通学の問題が生じますので、難しいところがあると思います。

委員

たしかに通学というのは子どもにとっても、親にとっても負担になるものだと思いますが、実際に小中一貫校となっているところを見てもらえれば、自分の子どもを小中一貫校に通わせたいと思う方も出てくるのではないのでしょうか。

市長

その点については、先ほどご指摘があった公平性という観点からも難しい問題が生じる
ところですね。一部の地域で小中一貫校の良い学校ができてしまうと、他の地域との間で
不公平が生じてしまうということがあると思います。この点については、各学校が切磋琢
磨し合う中で、一時的に差がついてしまうのは、ある程度仕方がないことではないかと思
いますが、どこまで受け入れてもらえるかというのが問題になってくると思いますね。

委員

実際に新しい校舎を使って教育を行うのは先生方になると思うのですが、先生方がこれ
からどういった教育を目指していきたいと思っているのかを聞き取るような仕組みはあ
るのでしょうか。

事務局

現状はそこまでの聞き取りはできていないのですが、今後、校長会などで聞き取りがで
きればよいと考えています。

市長

とても重要な指摘だと思います。校長会での聞き取りだけでなく、若い先生たちの意見
を吸い上げていくことも今後は大事になるのではないのでしょうか。

委員

外からの意見で校舎を造っても、それがうまく活用されなければ無駄になってしまいま
すので、若い先生方からも万遍なく意見を聞いていただいて、それらの意見と市民からの
意見を調整して、新しい校舎に反映させていっていただければと思います。

事務局

その点については、方向性を決めるにあたり、今後、ワークショップを通じて市民から
の意見を聞いていく予定でして、その意見に建築の視点からの意見と教職員からの意見を
すり合わせて、基本計画書を作り、それを基に設計をしていきたいと考えております。校
舎を一番使うのは子どもたちと先生方になりますので、先生方からの意見もしっかり聞い
ていきたいと思っております。

市長

校長先生たちが若い先生たちの意見を早い段階で吸い上げてくれることを期待したい
と思いますが、できれば生の声が聞ければ良いですね。

委員

私は先生たちの意見を聞くことも重要だと思うのですが、それに加えて子どもたちの意
見も聞いていただければと思います。新制服プロジェクトでは、子どもたちの意見を広く
聞いていただきましたが、そうすることで子供たちは「意見を出したら変えられるんだ」
という経験ができたんじゃないかなと思います。突拍子もない意見も出てくるとは思いま
すが、子どもたちに意見を出してもらうことによって、子どもたちが地域に愛着を持って
くれるようになるんじゃないかと思います。また、大人の中から見て突拍子もない意見で
あっても、一つか二つくらいは案外うまくいくような良い意見が出てくるんじゃないかと

も思います。ですので、ぜひそういう機会を作っていただければと思います。

教育長

新制服プロジェクトでは、子どもたちが意見を出して実際に制服を変えられたという経験をすることができたと思いますので、そこは大事な視点にしていきたいと思います。

委員

先日、小学校に行ったときに感じたことなのですが、今は、教室にはエアコンが入っていますが、廊下や昇降口に出ると本当に寒くて、子どもたちはよく耐えているなど思いました。また、学年ごとに集まって授業を行うのにちょうど良いサイズの教室が少ないので、そういった教室もできると良いなど思います。中には雨漏りしている部屋もあって、子どもたちにはもっと良い環境で学ばせてあげたいと思いました。

一つの学校を建て替えるだけでも大変だとは思いますが、できるだけ早くすべての学校をより良い環境にしてほしいと思いますし、良い環境になれば子どもたちや先生方のパフォーマンスも上がると思います。

市長

今は、給食費を無料とするなど、保護者への金銭的支援に世間の目がいきがちなので、施設建設などは世間受けがあまり良くないのですが、国家百年の計というように教育は非常に重要だと私は思いますから、お金の面で大変な部分もありますが、なんとか学校の環境を良くしていきたいと思っています。

委員

基本方針を見ていると、統廃合については、ほとんど書かれていないのですが、人口が減って、生徒も減り、教職員も減り、経済が縮小していく中で、自分たちの世代の責任として、縮小に対してどのように対応していくのか、少なくとも議論だけは起こしていかないといけないと思います。学校数を維持しつつ、各学校の規模を縮小していくのか、それとも統廃合を考えていくのか、人口減少に伴って税収も減少していくおそれがある中で、縮小に対してどう対応していくのかを考えていなければならないと思います。今、ここにいる方たちは国が大きくなっていく経験しかないので、なかなか難しいところもあると思いますが、自分たちの世代の責任として対応を考えていかなければならないと思います。

事務局

単なる減築であれば、通学距離の問題は生じないのですが、統廃合をするとすると、通学距離の問題が生じてきます。一方で、一宮市ではコンパクトシティ構想を掲げているので、公共施設の複合化は今後、考えていく必要があると思います。校舎というのは一度建てると80年くらいは使えますし、きちんと維持管理していけば100年後や120年後くらいまで持ちますので、生徒の通学路と利用者の車の出入りの動線がきちんと分けられることが条件となりますが、校舎を縮小して余った建物を他の用途に使っていくということも考えていかなければならないと思います。ただ、市の方から複合化を提案すると、賛成の意見だけでなく、反対の意見も出てきてしまいますので、地域の方から提案が出てきた場合

には、複合化を検討していきたいと思っています。

市長

他の市町村の話聞いていますと、統廃合というのはとてもハードルが高くて、特に行政の方から提案をすると難航することが多いようです。

教育長

統廃合においては、小さくしながらも良い財産を残していくという視点が重要になってくると思います。

また、スリムにしていくというのは、お金を有効に使うという観点からも大事になると思います。例えば、3校を1校に合併できれば、教職員の人件費が大きく抑えられて、他のことに有効に使えることとなりますから、この点については、将来に向けて考えていかなければならないと思います。

委員

保護者の視点からすると、統廃合をするにあたっては、通学が一番のネックになってくると思うのですが、その点に関して何か打開策はないですかね。

年配の方からすると「母校がなくなってしまう」というような思いもあるとは思いますが、そのような思いも尊重しつつ、これからの子どもたちのことを考えると、将来的には統廃合も必要になってくるのではないかと思うので、交通手段について何か打開策があると良いのですが。

教育長

街に出なければ学校がないような田舎の方では、子どもたちはみんなバスで学校に通っていますよね。また、私立学校などを選んで通っている子は、地下鉄などで通学していますから、良い学校で勉強できるのであれば、通学手段にはこだわらないという家庭は増えているのではないのでしょうか。

委員

今は、放課後デイなどでは、施設の方が学校まで子どもたちを迎えに行って、そのまま放課後デイに送っていくパターンが出てきていますが、これは数年前までは考えられないことでした。ですので、今後は、どんどんと時代が変わって行って、スクールバスを運営するような仕事が出てくるのではないのでしょうか。

市長

他の市町村だと、二学年で一学級という状態になっても、学校を存続させてほしいという意見の高齢者が多いようですから、難しいですよ。

ただ、小中一貫とかで魅力ある学校を作れば、その学校を見て、こんな良い学校ができるのであれば統廃合も良いのかなと思っていただけるように変わってくるのではないのでしょうか。

委員

一宮市では保育園も老朽化が進んでいると思うのですが、保育課と連携を取り、保育園

との複合施設を建設することなども模索をしているのでしょうか。

市長

その点については、考えていますよね。

事務局

基本方針の中に学校周辺の公共施設の一覧を載せておりまして、「この施設となら一緒にできそうだ」ということを地域の方に考えてもらえるようにしてあります。

市長

皆様、闊達なご意見、ご指摘ありがとうございました。

以上で総合教育会議を終了とさせていただきます。

事務局

ありがとうございました。

次回の開催については追ってご案内させていただきます。